

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
H201	経済史 I	2年	講義	2	安藤哲
授業概要 ヨーロッパにおける社会経済の変遷を、古代から中世までとり、人間が生きていくための経済の仕組みと人間の活動について理解を深める。					
到達目標(学習の成果) 人間が生きていくために必要なエネルギー(食糧など)の生産と消費のシステム、交換・交易の仕組みは時代とともに変化して行くが、この頃のエネルギー循環の基本は意外とシンプルであることを知り、複雑化している私たちの暮らしを大局的に腑分けし理解を深めていく際の、基礎となる専門的な知識を身に着けることをめざす。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	経済史 I で学ぶこと	経済史 I を学ぶに当たっての心構えと課題について			
2	人間が生きていくこと	文明の寿命を決めるもの			
3	メソポタミア文明の経済	農耕を発展させた動機と水利、一灌漑の罫			
4	エジプト文明の経済	ナイル川が育んだ小麦経済			
5	クレタ〜ミケーネ文明の経済	鉱物資源と小共同体社会、一ポリスの原型			
6	奴隷制に基づくポリス国家アテネの経済①	自給的村落共同体の特徴と変容			
7	奴隷制に基づくポリス国家アテネの経済②	商工(鉱)業生産の特徴と奴隷労働			
8	奴隷制に基づく古代ローマの経済と社会①	領土拡張がもたらした光と影、一ラティフィインディウムの成立			
9	奴隷制に基づく古代ローマの経済と社会②	領土拡張の終焉とコロナート制			
10	奴隷制に基づく古代ローマの経済と社会③	食糧(穀物)と税制をめぐる経済構造			
11	ゲルマン人の移動とヨーロッパ内陸社会の形成①	フランク王国の発展と分裂			
12	ゲルマン人の移動とヨーロッパ内陸社会の形成②	自給自足・商業停滞と移動する宮廷の社会と経済			
13	西ヨーロッパ中世社会の成立①	紛争と古典荘園の成立、一契約関係を生み出す社会			
14	西ヨーロッパ中世社会の成立②	村落共同体の経済と生活			
15	西ヨーロッパ中世社会の成立③	地中海商業圏からの離脱、一自給自足社会への回帰			

準備学修(授業外の自己学修)

- 1 毎授業時に配布する資料をよく読み、不明な点を調べ、次授業での質問に答えられるようにする
- 2 授業中にとりあげる用語は、調べ直しを通して深く理解しておくこと

成績評価の方法・基準(%表記)

期末テスト(100%)

観点	S	A	B	C
生産と消費の関係と課題は変化していくことがわかる	関係がわかる	関係がほぼわかる	十分に関係がわかる	関係が一定程度わかる
変化の動因への認識が深まっている	認識は深まっている	認識はほぼ深まっている	十分に認識が深まっている	一定程度認識は深まっている
歴史用語と知識が身についている	身についている	ほぼ身についている	十分に身についている	一定程度身についている

教科書

使用しない

参考書等

毎授業時に資料を配布する

履修上の注意・学修支援

授業内容は相互に関連するので欠席しないよう心がける、座席は任意ですが固定します

なお、準備学修や復習を通して生れた疑問や理解できないことについては、授業後質問すること